

## さまざまな特色を関連づけて、日本を見よう

山口県周南市立熊毛中学校 稲垣宏美

### 1 学習指導要領における「世界と比べて見た日本」の学習

学習指導要領の記述を読んでもと、地理的分野大項目（3）世界と比べて見た日本のイでは、「アの各項目で学習した成果を相互に関連付け、世界的視野から見た日本の地域的特色、日本全体の視野から見た諸地域的特色を大観させる」ことが目標とされている。

学習と聞くと、新たな知識の獲得というイメージが強い。学校の授業においては、その知識は、教師から生徒に一方的に伝達されていくスタイルが一般的である。しかし、このようなスタイルの学習ばかりでは、常に学習の主導権は教師が握ってしまうことになり、生徒の学習意欲を高めることが難しくなる。そこで、すでに獲得した知識を組み合わせていくことで新たな知識を創造していくことが求められる大項目（3）イのような学習活動の有効性がクローズアップされるのである。

知識を組み合わせていく際には、組み合わせ方には、次の2つのタイプがあるだろう。

- ・ 関連性が強いと思われる知識どうしの組み合わせ
- ・ 一見関連性がないと思われる知識どうしの組み合わせ

関連性の発見ということに関しては、もちろん、後者の組み合わせの方が喜びが大きいであろう。ただし、関連性の薄いものの中から関連性を浮き上がらせていくことはそう

簡単な作業ではなく、場合によっては無理やりこじつけたような組み合わせになってしまう恐れもあるので注意が必要である。

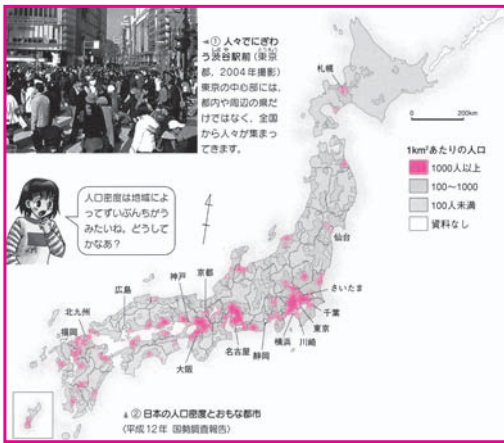
### 2 授業の展開例

この中項目の基本的な流れは、帝国書院の「中学生の地理 初訂版」212～213ページに掲載されているように、様々な視点からとらえた日本の地域的特色のシート（いわゆる「特色シート」）を何枚か重ね合わせていくことによって、新たな発見を促すという流れである。ただし、何の目的もなく今までの学習で作成してきた「特色シート」を重ね合わせていくだけで新たな特色を発見することは、なかなか難しいように思われる。そこで、教師が何らかの課題を設定し、その課題を解決するために自分の「特色シート」を重ね合わせていくという学習の流れを設定する。

課題設定の方法としては、地理的分野の5つの視点の中の1つを選び、その課題を解決するために他の4つの視点の結果を活用するという方法がある。ここでは、「人口」という視点に注目して課題を設定し、他の「資源や産業」「自然環境」「生活・文化」「地域間の結びつき」の4つの視点を重ねることとする。

#### （1）現在の特色の背景を考察させる課題

まず、日本の人口分布図を示す。



「中学生の地理 初訂版」p.154

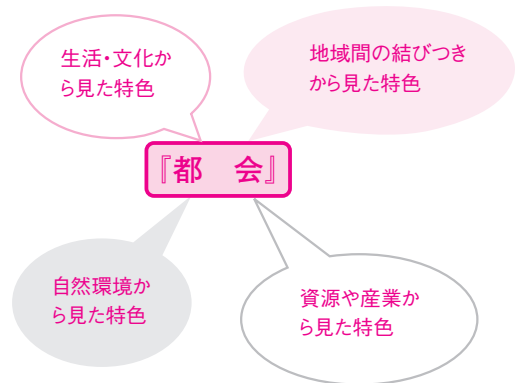
東京・大阪・名古屋と各地方中核都市を中心とした都市圏に人口が集中し、その他の地域にはあまり人口が分布していないという、現在の日本の特色がわかるだろう。ここで、「なぜこのように人口分布に差があるのだろうか」という課題を設定し生徒に追究させる。

実際に、大項目（3）アの学習を行う前に「なぜ東京や大阪、名古屋は人口が多いのか?」という問いかけをしてみた。そのとき、生徒からは、「『都会』だから」という答えが返ってきた。十分な知識を持っていないと、このようなイメージ先行のあいまいな言葉でしか表現することができない。ところが、大項目（3）の学習を終えた段階で同じ問いかけをすると、生徒から帰ってくる答えは、前とは異なっている。たとえば、

- ・平野なので生活するのに適しているから
- ・交通網の拠点であり、移動が便利だから
- ・古くから産業、とくに工業が発達してきた地域であり、工場働く人々が集まってきたから

などといった答えが返ってきた。これらの答えは、生徒がこれまでの学習を通して獲得した「自然環境から見た日本の地域的特色」や「地域間の結び付きから見た日本の地域的特色」に関する知識を動員し、作られたものである。

このような重ね合わせの作業を行うことは、生徒の知識のレベルの向上につながる。



学習後、生徒から出てきた『都会』という言葉の意味について考えてみると、

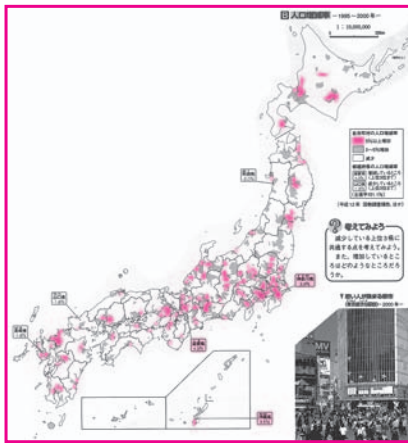
- 日本の『都会』 = 人口が多いところ
- = 基本的に平野部に位置している
- = 交通網の拠点である
- = 産業発達地域である

というような説明が可能になる。生徒の手によって、『都会』という言葉の新たな定義 = 知識が形成されたのである。より具体的に、かつ複数の視点から説明することができるようになっており、知識のレベルアップが確認できる。一方的に押しつけられた知識ではなく、自分自身の主体的な活動の結果として形成されたこのような知識は、生徒の認識の中に長い時間定着することができるだろう。

## （2）過去の変化の背景を考察させる課題

生徒が、大項目（3）アの学習を通して理解した日本の地域的特色は、実は一定のものではなく、時間の経過とともに変化していくものが多い。時間軸を意識した課題を設定して重ね合わせを行ってみるのもおもしろい。

都道府県別の人口増加率を示す地図を提示する。



「中学校社会科地図 初訂版」p.118

単純に人口分布を表した場合とは少し異なる特色が現れている。ここで再び、教師が「なぜこのように人口の増減に差があるのだろうか」という課題を設定する。

たとえば、1995～2000年の都道府県別人口増減率を見た場合、都心部から少し離れた神奈川県や滋賀県の人口増加が著しいことに気づく。生徒は、先ほどの人口分布に関する課題を解決するために活用した複数の「特色シート」を再び利用して、その原因を推測する。

- ・人口が現在多いところは交通の拠点であり工場などの集中地域でもある
- =大量の自動車が通行し、工場からは煙が出てくることが予想される
- =環境が汚染されている危険性あり
- =住みにくくなり周辺部へ人口が移っていったのでは？

もちろん、かつての高度経済成長の時代は、三大都市圏の人口増加は著しいものがあっただろう。人口の増減の様子を、年代を追って見ていくと、人口増加の背景にある社会が、時代とともに変わったことも見えてくる。

### （3）未来の状況の理由を推測する

せっかく時間軸を意識した課題を設定したので、時間的な余裕があれば、「今後10年間、

日本国内で人口が最も増加するのはどのあたりだろうか」という未来予想の課題を提示してみるのもまたおもしろいだろう。



今まで通り、大都市圏を軸にした人口集中・人口増加の傾向を予測する生徒もいるだろう。一方で、都市圏で発生している様々な問題を嫌がって、周辺部への脱出の傾向が強くなると予測する生徒もいるかもしれない。定年退職者が農業をするために移住するという最近の流行をとらえ、農業がさかんな地域への人口移動を予測する生徒もいるかもしれない。自分の予想の正しさを裏づける証拠として、今までの学習の成果を活用する。

## 3 大項目（3）の評価の場面としての中項目「様々な特色を関連付けて見た日本」

本稿は、目新しい授業提案ということではなく、この中項目の意義を改めて確認するという思いが強い。学習指導要領にも記述のあるとおり、この中項目はあくまでも大項目（3）アの学習のまとめのための中項目であり、その学習内容の理解度を評価するための中項目であるということになる。自分の持っている知識を目的に合わせて活用することができたとき、それこそまさに、その知識を獲得したすなわち「理解した」といえるからである。評価という点も忘れることなく、指導にあたりたいものである。